

防災ピクニック実施報告書

一般社団法人 TUG BOAT

1) 本事業の概要

信州大学 学術研究・産学官連携推進機構様（以下 信州大学）が進行中の『信州リビング・ラボの基本構想』中である今年度実施内容に基づき、信州フューチャーセンターとして『防災』をテーマに市民参加型のワークショップに繋げるイベントを実施する。

（信州リビング・ラボ構想の概要について（案））より

平成 28 年度内には、信州リビング・ラボの基本機能を検証するために、地域コミュニティを活用した市民を巻き込んだ健康／防災をテーマとするテスト・ワークショップを実施する。

ex. [防災] 信州フューチャーセンター、[健康] 松本ヘルスラボ等

2) 企画設計の趣旨

①信州大学の委託内容《地域コミュニティを活用した市民を巻き込んだ「防災」をテーマとするワークショップの実施》に基づく住民参加型イベントを信州フューチャーセンターの設立目的である【自立する地域】の活動の1つとして実施する。

【開催日】

「防災」に対し、関心が高まる東日本大震災6年目となる3月11日に実施。

【体験型イベント】

「防災」というテーマに対し、より多くの市民の方が興味を持ち参加しやすいアプローチを目的とし『防災ピクニック』というネーミングとチラシづくり、体験型の内容を企画。

- ・ 防災ピクニックチラシ（別紙）
- ・ 初めての消化器体験（風船のプレゼント）
- ・ スウェディッシュトーチに火をつけてみよう（マシュマロを焼いて食べる）
- ・ ロケットストーブでご飯を炊いてみよう（羽釜で炊いたご飯を食べる）
- ・ 防災グッズに触れてみよう（様々な防災関連商品を直に触れてみる）
- ・ 災害時の様子を見て学ぼう（震災時の映像を見てイメージする）

【ワークショップ】

今回のように参加者が流動的であったり、参加者が予測できないケースにおいて2パターンの「防災に対する意識調査」を実施。

- ① 流動的な参加者・・・ポストイットに記入する簡易的な参加。
- ② お茶のみワークショップ・・・一般市民の方が「防災」をテーマとしたワークショップに参加することは困難なため、「防災」に関心を持ちイベントに参加いただいた多くの方々に対しワークショップへ参加しやすい場として「お茶のみ」と人数がある程度まとまったタイミングを考慮し実施。

3) 実施内容と成果

内 容	成 果
<p>① 防災ピクニックチラシ</p> <p>《目的》→集客と定着</p> <p>「防災」という固いイメージの催しにおいてより多くの世代が参加しやすいアプローチと休日が有意義な時間となりそうな働きかけをすると共に、このチラシの信頼性を高め次回も参加しやすいイベントへと定着させる</p>	<p>参加した子ども連れの世帯は全てチラシを見て参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 30代夫婦+子ども3名 ・ 30代父+子ども2名 ・ 40代母+子ども2名 ・ 30代夫婦+子ども2名 ・ 60代祖母+子ども2名 ・ 60代祖母+子ども1名 <p style="text-align: right;">(計20名)</p>
<p>② 体験型イベント</p> <p>《目的》→関心を高める</p> <p>災害時において役立ち尚且つ「楽しく」体験ができることで「防災」に対する関心を高める</p>	<p>《聞き取り調査より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもに体験させながら家族で防災に対し向き合う時間が欲しくて参加した 30代父 ・ このようなイベントを PTA の役員の時にしたかったが叶わず今回実現ができた 30代父
<p>【消化器体験】</p> <p>地元の防災企業との連携により消化器の使用法、放水による消化のコツを学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元防災企業との連携ができた ・ 親子での学びが得られた <p>「子どもが教えてもらっているのを自分ごととして学んだ」30代母</p>
<p>【スウェディッシュトーチに火をつけてみよう】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外でのマッチの不便さを学んだ ・ 木の着火の難しさを学んだ

<p>丸太に切り込みを入れた木にマッチで着火・・着火の難しさを学ぶ</p>	<p>「この形状のものを乾燥させておくのも防災備品になる」 30代父</p>
<p>【ロケットストーブでご飯を炊いてみよう】 直火でご飯を炊く体験や見学を通じてライフラインが寸断された時の手法を学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 羽釜でご飯を炊く工程を地元の米農家さんも学ぶことができた ・ 実際に食べながら直火で炊くコツや違いをお母さん方が実感できた 「米の浸水時間によってかなり出来上がりが違う。有事の時も覚えておきたい」 30代、40代母
<p>【防災グッズに触れてみよう】 防災グッズを展示し実際に触れる事で生活に活かし得る物かどうかの体験をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協賛企業とのタイアップで実際に普段触れることのできない防災グッズに触れ、関心を高められた ・ 協賛企業は商品開発に繋がられた <p>※企業の成果報告は別紙</p>
<p>【災害時の様子を見て学ぼう】 震災時の様子や災害時対策の映像を流し自由に見ながら防災意識を高める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薄れかけてしまう災害に対する意識が当時の様子や非常時対応の映像から改めて意識を高めることができた 「子ども連れでも椅子に座りながらのんびり映像を見られて改めて何もしていない事を実感できた」 30代母
<p>③ワークショップ 《目的》 ワークショップを敬遠しがちな世代も巻き込み、普段、意識しにくい「防災」について対話し、向き合い、自分ごととして捉える機会とする</p>	
<p>【流動的な参加者】 主に子ども連れの世帯に口頭でワークショップへの参加を呼びかけたが断られたため、ポストイットへ『震災があったら困る事』を記入していただく</p>	<p>《記載内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライフラインが不安です (30代 男性) ・ 子どもが小さいので学校や通学路など一緒にいない時に災害がおこ

	ったら心配（30代 女性） ・ 備蓄していない、困る！ （40代 女性） ・ 時間が経つと危機感が薄れてしま う。（備蓄の）賞味期限が過ぎてい る（30代 女性）
【お茶のみワークショップ】 参加市民や協賛企業者ら多様な世代、 業種の方々とお茶を飲みながら「防災」 について向き合うワークショップを開 催。	参加人数 16名 その他 信州大学関係者 3名 （途中退席者あり）

以下、ワークショップ内容

Q 我が家の防災対策や備蓄は？

居住地	年代	職業		回 答
辰野町	70代	主婦	女性	・ 缶詰、消化器、ライト（枕元）、停電時につくライ ト（廊下）
辰野町	70代	主婦	女性	・ お米、野菜、漬物（蔵に備蓄）、消化器、ライト、 火災警報器、水（良い水源がある）、防災リュック、 外トイレは汲み取り式
辰野町	70代	主婦	女性	・ 手ぬぐい、LED ライト、手袋、カイロ、雨具、お 米、歯ブラシ、缶詰、お金（少々）、水、マッチ、風 呂敷
辰野町	70代	主婦	女性	・ LED ライト、毛布、防災リュック、梅
辰野町	50代	会社員	男性	・ カセットコンロ、家具の固定、ストーブ
辰野町	40代	主婦	女性	・ 屋外トイレ、水用ポリタンク、消化器、避難リュッ ク、家具の固定（食器棚）、火災報知器、ライト、キ ャンプ用品
辰野町	30代	自営業	男性	・ 特にしていない、消化器
辰野町	20代	自営業	男性	・ 水、トイレトーパー、電池
辰野町	40代	農家	女性	・ 備蓄米、水（蔵に備蓄）、屋外トイレ、生理用品、 ライト

伊那市	20代	学生	女性	・防災セット、家具の固定、ライト
松本市	20代	会社員	男性	・避難場所の確認、家具の固定
辰野町	20代	自営業	女性	・ライト、衛生用品、防災セット、ストーブ（電気不要）、発電機
辰野町	50代	会社員	男性	・20入りのペットボトル（1ケース）、ビスケット、防災用具入りのリュック歯ブラシ、ガソリンを満タン、ラジオ、豆炭こたつ、キャンプセット、レトルトカレー（家族分×2）、ペット用おむつ、ヘルメット、携帯用トイレ
辰野町	40代	自営業	女性	・消化器、携帯の充電（こまめに）、懐中電灯、
辰野町	40代	沖山防災	男性	・住宅警報器、発電機、カンパン、カップラーメン
松本市	20代	HARIO	男性	・コンクリートマンションに住んでいる、ニコニコ備蓄セット、トイレセット
		信州大学	男性	・マッチ（壁や地面など擦ってつくタイプ）、LEDライト、ふえ、豆炭こたつ、水、反射式ストーブ
		信州大学	女性	・マンションは耐震性の高い所、ガソリンは半分以下にしない、歯磨きセット（ホテルのアメニティー）
		信州大学	男性	・釜戸（ピザが焼ける）、本棚の固定、電気を使わないストーブ（反射式）、防災用の救急箱（息子さんが回答くださいました）

Q 今、震災があったら困ることは？

居住地	年代	職業		回 答
辰野町	70代	主婦	女性	・寒さ対策、家族への連絡、ガソリンを満タンにしていない、携帯も不携帯気味
辰野町	70代	主婦	女性	・家の倒壊、寒さ、家族との連絡、自分自身の身の安全を確保できるか
辰野町	70代	主婦	女性	・寒さが困る、年寄り2人暮らしで不安、家族の安否
辰野町	70代	主婦	女性	・水の確保、給水車が家まで入って来られるか、寒さが怖い
辰野町	50代	会社員	男性	・いざという時に行動できるか。どこで災害にあうか

				わからないがその時に自分が適切な行動ができるか不安。
辰野町	40代	主婦	女性	・電気の確保、太陽光なども災害時に機能するのか。家族とのルールができていない、実家の寝たきりの父のサポート体制ができていない
辰野町	20代	自営業	男性	・避難場所が心配
辰野町	40代	農家	女性	・家の倒壊が心配、備蓄のある蔵も災害時に開くかわからない。子どもと連絡が取れない時が不安
伊那市	20代	学生	女性	・家の倒壊が不安、地域の関係性の薄れ、近所付き合いもほとんどなくいざという時助け合えるか不安
松本市	20代	会社員	男性	・地域関係の薄れ、家の倒壊、震災発災後のストレス
辰野町	20代	自営業	女性	・以外と近所の人との連絡先を知らなかった、連絡をとる手段がわからない
辰野町	40代	自営業	男性	・県内各地で仕事をしており、災害時に帰って来られるか不安（ガソリンやルート）家族との連絡が決まっていない
辰野町	40代	自営業	女性	・備蓄が準備していない、ペットをどうしておけばいいか？
辰野町	40代	沖山防 災	男性	・家族の避難場所のルールを決めていない（7人家族）
		信州大学	男性	・家族の連絡先（携帯番号）をアナログで持っていないければ覚えられない。
		信州大学	女性	・職場以外に知り合いが居ない為、生存確認などに時間が掛かる華農政が高く不安。
		信州大学	男性	登下校中の道のそばに高い木があり倒れるか不安。家よりも学校にはライトなどの備品がなく不安。

Q 防災ピクニックに参加して今日から始めること、最初の一步は？

居住地	年代	職業		回 答
辰野町	70代	主婦	女性	・寒さ対策が不安なので何ができるか考えてみます。風呂敷を持ち歩く、毛布を余分に用意してみます。
辰野町	70代	主婦	女性	・寒さの対策を家族と考える。携帯の充電チェック。離れている子どもが心配なので連絡をとり話す。
辰野町	70代	主婦	女性	・寒さが怖いと改めて感じた。防災の日に支え合いマップを地区で作っているので活かす。携帯を持ち歩く
辰野町	70代	主婦	女性	・ガソリンを半分以下にしないと良いことを聞いた。離れている子どももいるので意識します。
辰野町	50代	会社員	男性	・まずはコミュニティが重要だと実感した。ここであったことを人に伝える。人との繋がりを大切にする。
辰野町	40代	主婦	女性	・家族で防災ルールを作る。こういう場が地域ごとにあったら嬉しい。
辰野町	20代	自営業	男性	・家族や隣近所の方とコミュニケーションをとりたい
辰野町	40代	農家	女性	・今日のような中での防災の学びは身につくと感じた。まず、防災グッズを確認します。
伊那市	20代	学生	女性	・防災の備蓄をする。周りに気を配り、近所の方のことも意識しようと思う。
松本市	20代	会社員	男性	・枕の上にライトを置く事を今日聞いて自分もしようと思う。こういったイベントで周知できたらいい。
辰野町	20代	自営業	女性	・場所よってのシミュレーションを考えてみようと思います。
辰野町	40代	自営業	男性	・まず一番関心が薄かった自分に気がついた。意識してスマホに全て情報が入っているので紙に記入する。
辰野町	40代	自営業	女性	・ご近所の顔を知って、どのような家族構成かも知るように意識したい。
辰野町	40代	沖山防災	男性	・今日の学びを家族に話しルールを決めます。
		信州大学	男性	・防災グッズをまず探します。コミュニティが大事、しっかりと作っていきたい。
		信州大学	女性	・寒さに弱いのでその対策をします。
		信州大学	男性	・いつどこで災害にあうかわからない。今いる場所に

				よってシミュレーションしてみる必要がある。デジタルの物は災害では危ういものであるからこれを何とか考えたい。
				・防災の物の準備をすぐに持っていけるようにする

【初めての消化器体験】



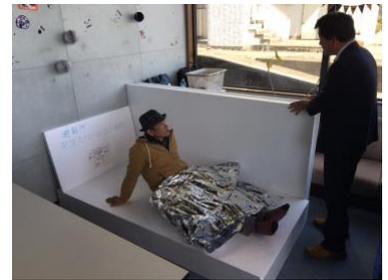
【スウェディッシュトーチに火をつけてみよう】



【ロケットストーブでご飯を炊いてみよう】



【防災グッズに触れてみよう】



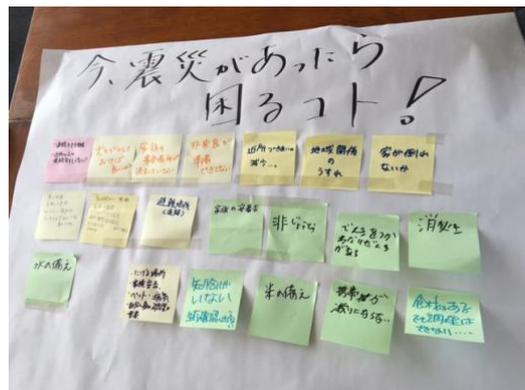
【災害時の様子を見て学ぼう】



【お茶のみワークショップ】



【お茶のみワークショップ】



4) 今後の活動について

信州フューチャーセンターでは、今後も地域課題となるテーマに対し地域住民が参加しやすい形で多世代、異業種など様々なステークホルダーに呼びかけ対話による課題解決へと繋げていきます。今回のテーマである「防災」においてもブラッシュアップした内容で次年度以降も開催していきます。